

経営比較分析表（平成29年度決算）

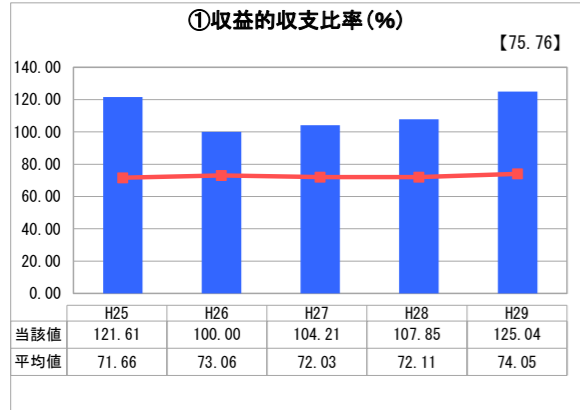
岩手県 滝沢市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	2.22	3,349	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
55,152	182.46	302.27
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
1,218	11.10	109.73

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



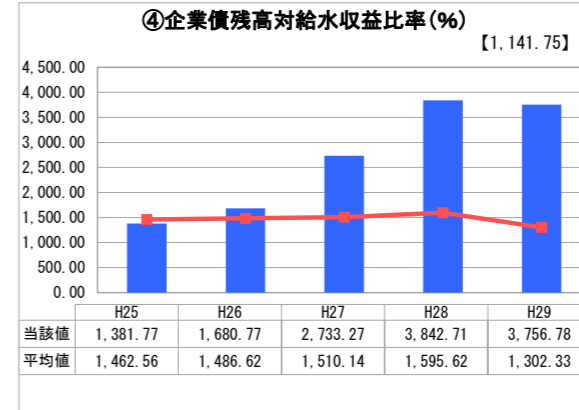
「単年度の収支」



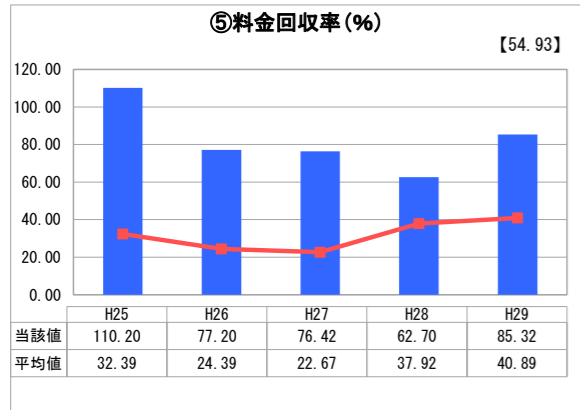
「累積欠損」



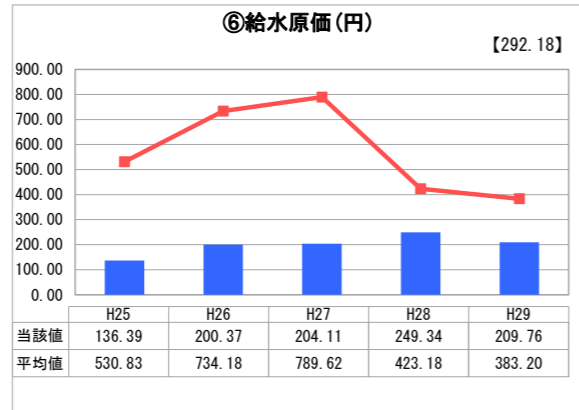
「支払能力」



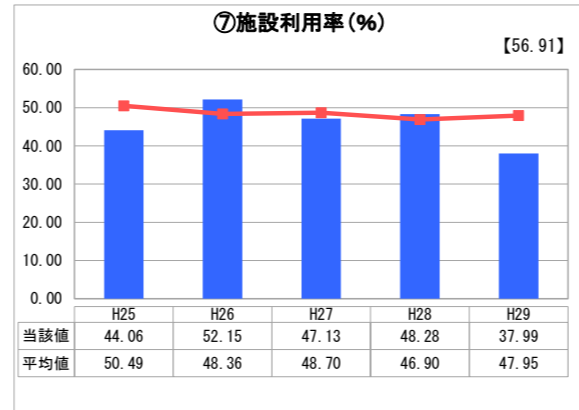
「債務残高」



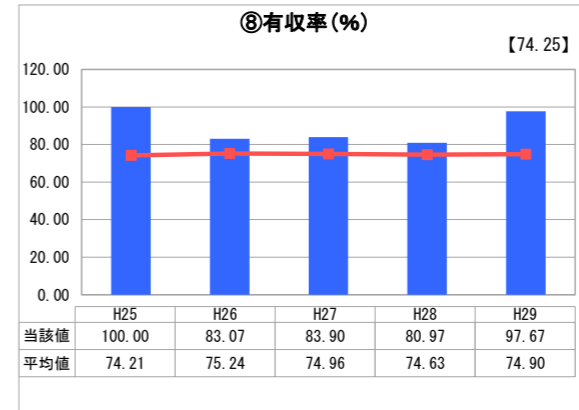
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

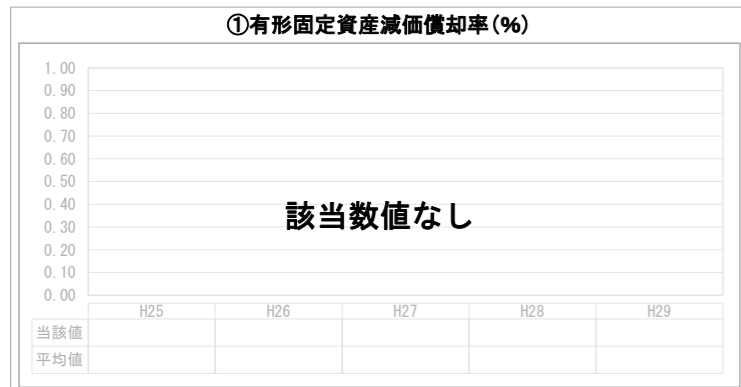


「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

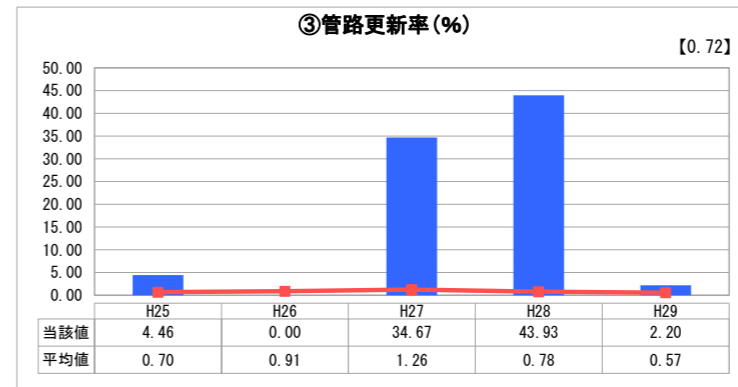
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

当市簡易水道事業は、平成30年4月の上水道事業との統合に向け水道料金改定や施設更新事業を行ってきました。特に施設更新については、上水道事業との統合に係る国の補助を活用して短期間で更新工事を実施しています。

①⑤収益的収支比率は100%を超えていますが、料金回収率は100%を下回っていることから、水道料金収入以外の一般会計繰入金等の収入で給水に係る費用を賄っている状況です。

④企業債残高対給水収益比率については、上水道事業との統合に向け短期間で更新工事を進めため、起債借入が増加し、当該比率も上昇しています。

⑥給水原価については、全国平均や類似団体と比較して低い値となっています。良質な水源を確保できていることが大きな要因となっています。

⑦施設利用率は、全国平均等よりも低い値となっており、配水能力に余剰があることから、上水道事業との統合により、効率的な施設利用を進めていく必要があります。

2. 老朽化の状況について

当市簡易水道事業は、上水道事業との統合に向け短期間に管路更新を行いました。平成28年度で計画した管路更新事業を完了し、区域内施設の耐震化率は100%となっています。

③管路更新率については、平成28年度で区域内施設の耐震化事業を完了したことから、40ポイント程度の減となりましたが、管路更新により法定耐用年数を超えた管路が解消されたことから、施設の状況としては、良好な状態で上水道事業に引き継ぎを行うこととなります。

全体総括

当市簡易水道事業は、平成24年4月に民営の簡易水道事業から経営移譲を受けた後、2段階での水道料金改定や管路等老朽化施設の更新を行いながら、平成30年4月からの上水道事業との統合に向けた経営体制を整備してきました。

事業統合により、簡易水道事業の良質な水源と高い配水能力を有効かつ効率的に活用できるよう、水道事業全体として適切な施設規模を把握していくことが必要となります。

また、上水道事業に引き継ぐこととなる起債償還や固定資産については、統合後においても正確に事務執行が行われるよう調整していきます。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。